

コミュニティ福祉学部卒業生による学生生活の一事例

鈴木 瑠偉

(立教大学新座キャンパス教務部教務事務センター 職員 /
スポーツウエルネス学科 2019 年卒業 /
コミュニティ福祉学研究科博士課程前期課程 2020 年修了 /
スポーツウエルネス学 (修士))

・はじめに

本稿は現役大学生とこれから大学を目指す高校生以下の人達に向け、私の学生時代（大学入学～大学院修了まで）の活動についてまとめたものです。現在、母校の立教大学の職員になったことも含め、私は少し特殊な経歴を歩んできております。なぜ、その選択をしたのかという部分や、私が当時考えていたことなどにも少し触れています。こんな活動をしてきた学生もいたんだぐらいの感じで軽い気持ちで読んでいただき、皆様の学生生活の参考に少しでもなれば幸いです。

・学生生活のスタート

私は元々、保健体育の教員を目指していたことに加え、スポーツを科学の観点から追及すること、スポーツを勉学として学ぶことに興味があったことから、立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科を選択しました。なぜ立教にしたのかという点については、他校のスポーツ系学部・学科の合格も頂いていましたが、自分の中で感覚的に立教が良いなという考えに至っていたので、立教への入学を決めました。

課外活動の面では、体育会アメリカンフットボール部に入部を決めます。元々は、高校まで野球を続けていたため、体育会野球部に入部しようと考えていました。しかしながら、セレクション（入部試験）に落選してしまい、体育会野球部に入れませんでした。結果、野球から離れることとなり、他の競技を探していたところ、アメリカンフットボールに出会い、大学からは始める人が多い競技であるということと、単純にかっこいいと感じたことから入部を決めました。体育会アメリカンフットボール部に入部した選択は、私の人生の中でもかなり重要な選択ではありましたが、理由としては感覚的に決めた部分が大きかったように思います。

・その後の主な活動

スポーツ科学の中でも人体の動きや運動の仕組みに興味があったので、大学3

年生から石井秀幸先生のゼミに入り、スポーツバイオメカニクス・スポーツ工学を学び始めました。ゼミ活動の中での大きな選択としては、大学院に進学することを決めたことと、「大学院特別進学生制度」を利用することを決めたことです。「大学院特別進学生制度」とは大学4年生から大学院の単位を取得し、本来は学部卒業後最低2年間必要なところを、実質1年間で大学院を修了し修士の学位を取得することができる制度です。この制度を利用するか非常に悩みましたが、様々な観点から考慮し、制度を利用することが私にとって最も有意義な選択になると判断したため、「大学院特別進学生制度」の利用を決めました。ちなみに、コミュニティ福祉学部では歴代2人目の特別進学生となります。

体育会アメリカンフットボールでの活動では、大学4年生よりチームのマネジメントを統括する主務という役職に任命して頂き、チームのモラル向上、他団体との連携強化を目標に活動していきました。チームのモラル向上を図るに当たっては、それを進める本人が身勝手では部員も付いてきてくれないと考えたため、チームの模範となるような行動を常に心掛けることを意識していました。大学4年生の1年間は卒業論文、大学院の授業、教育実習、体育会アメリカンフットボールの活動と多くのタスクがあり、非常に多忙な1年間でした。

学部卒業後は大学院生として実験と修士論文の執筆に励みました。修士論文のテーマは「アメリカンフットボールの投球における指先接触解析手法の開発と妥当性検証」で、ボール形状の数式化などを用いて、ボール表面と指の位置関係からボールと指の接触を解析する新しい方法を開発するというのが論文の簡単な内容になります（厳密に言えば少し異なる部分もありますが、なんとなくイメージしていただければ大丈夫です）。無事に審査も通過し、スポーツウエルネス学（修士）の学位を取得しました。

大学院生の時には就職活動も経験しました。実は、大学職員を目指そうと思ったのは、就職活動を始めてからです。保健体育の教員を目指していたため、そもそも教育に興味があったことや、大学で多くの活動を行う中で興味の対象が中等教育から高等教育に移っていたこと、大学職員であれば私の経験や経歴を活かすことができると考えたこと等、様々な観点から進路を考えた中で、大学職員が良いと確信を持てたのが大学職員を目指した理由です。

・ 選択する力

大学は非常に自由な場です。もちろん制約はありますが、授業の取り方は人それぞれですし、他大学の授業を履修して単位を取得することもできます。サークル等の団体に入るかどうか自由ですし、どんな団体に入るかも自由です。場合によっては、自分の目指すことに合わせて休学や退学といった選択肢もあります。そんな環境だからこそ、皆さんには大学での生活を通して、「選択する力」を身に

付けていって欲しいと思います。私の考える「選択する力」とは、自分の感情や周りの環境、手に入る情報等、多くの要因を整理した上で自分が納得できる選択をする力のことです。

感覚で選択することも悪いことではありません。私も感覚やなんとなくで選択したことが多くあります。しかしながら、そのままなんとなくで過ごしていたら、今の私は無かったです。その後の行動のなかで、しっかりと考え、しっかりと情報収集をし、しっかりと整理することによって、感覚やなんとなくで選択したことに理由がついてくると私は考えます。そして、その経験が皆さんの血となり骨となり、さらに具体的に言えば、就職活動における自己PR等になっていくのではないのでしょうか。

・おわりに

2020年度は新型コロナウイルスの影響でオンライン授業が中心となり、キャンパスにも満足に入らず、学生の皆様には非常にご不便をおかけしております。しかしながら、新型コロナウイルスの影響は悪いものだけではありません。オンライン授業の普及は学びの選択肢が増えたと考えることもできます。新型コロナウイルスの影響が落ち着いたとしても、オンライン授業がなくなることはなく、対面とオンラインのハイブリッドが主流になることが見込まれます。卒業するまでの学び方もさらに多様化していき、「選択する力」がさらに求められるのではないのでしょうか。

私は大学職員という職を選択しましたが、この選択が本当に良いものだったのかどうかはまだわかりません。唯一言えることとしては、良い選択にするために、私自身も考えることを止めず、しっかりと情報収集をして、自分の納得する選択を繰り返していく必要があるということです。大学職員として学生の皆様の選択肢を増やして行けるように、日々精進していきたいと思います。

学生の皆様が納得のいく「選択」をできるように、心から応援しております。時には気合を入れ、特には休み、充実した学生生活をお過ごしください。

・謝辞

この場をお借りして、指導教授として長年ご指導して頂き、私の学生生活を支えてくださった石井秀幸先生に感謝を申し上げます。石井先生から多くのことを学ばせて頂きました。また、スポーツウエルネス学科教員の皆様にも感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願い致します。